

I 研究主題設定の理由

1 学習評価の充実

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領においては、学習評価について、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、授業の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすることが示されている。【第1章第4節の3の(1)】

2 特別支援学校における学習評価

学習指導要領において、小学校・中学校、高等学校及び特別支援学校の全ての教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す三つの柱で再整理されたことを受け、「観点別学習状況の評価」についても、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習的に取り組む態度」の3観点に整理された。

知的障害特別支援学校においても、小・中・高等学校等との学びの連続性を重視する観点から、学習評価について観点別学習状況を踏まえ文章による記述が求められている。「学習評価」は、「学習指導」とともに学校の教育活動の根幹となるものであり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っていることから、各学校における充実は喫緊の課題となっている。

本研究では、知的障害特別支援学校における学習評価の基本的な考え方等を整理した昨年度の研究に引き続き、指導計画の作成から評価の実施までの流れや、3観点の評価の方法等について整理した。また、小学部及び中学部の全ての教科について、評価場面や評価方法、観点別学習状況の評価の総括等について研究を行った。

II 研究の目的

知的障害教育における学習評価の考え方を具体的に整理するとともに、3観点の評価を指導の改善に生かす方法や事例について、研究・開発を行う。

III 研究の方法

1 知的障害教育における学習評価の基本な考え方の整理

昨年度の研究の成果として作成した「都立特別支援学校における学習評価の考え方や進め方に関する研究・開発」（理論編）の内容を整理し、内容を補足する解説ページを作成した。解説ページでは、各観点の評価の具体的な事例を示すとともに、評価を指導の改善に生かす方法等について示した。

2 単元の構成から評価の総括までの流れの整理

昨年度の研究において、小学部の国語科及び算数科の評価計画を含む単元計画について研究したことを受け、引き続いて今年度は小学部、中学部の全ての教科の単元計画を作成した。具体的には、「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」に示してある「『内容のまとまりごとの評価規準』を作成する際の観点ごとのポイント」に基づき、各教科における評価規準の例や、3観点で評価を行う際の具体的な方法について研究を行い、評価の総括までの考え方を整理して示した。

IV 研究の成果（成果物の概要）

1 「都立特別支援学校における学習評価の考え方や進め方に関する研究・開発」（理論編）の抜粋

(1) 学習評価の基本的な考え方について

- 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童・生徒の学習状況を評価するためのものである。
 - 学習評価のPDCAサイクルにより、児童・生徒は自らの学びを振り返り、教師は指導を見直し、改善を図ることができる。
 - ・ 児童・生徒の実態把握を行い、指導計画を立案する。
 - ・ 単元を設定する。育成を目指す資質・能力の三つの柱で単元の目標を設定し、次に評価規準を作成する。
- ここで大切なのは、単元の目標や単元の評価規準を基に、児童・生徒一人一人の実態に応じた指導目標や評価規準を設定する、ということである。児童・生徒一人一人の学習状況を把握し、適切に評価を行うために、評価計画を立案する。（図1：学習評価のPDCAサイクル）

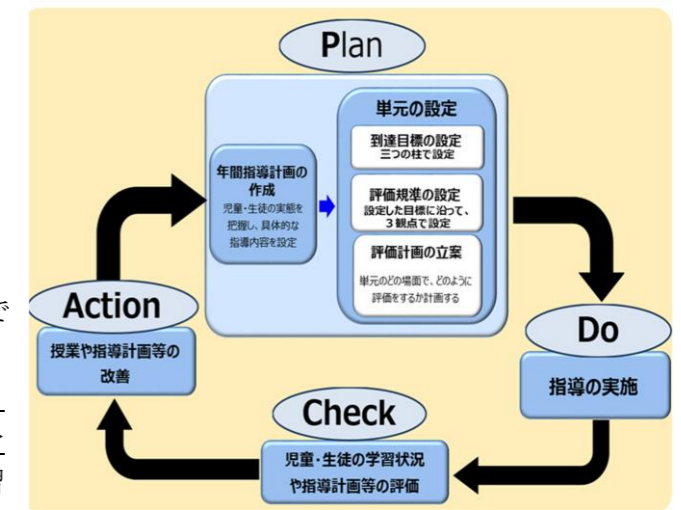


図1 学習評価のPDCAサイクル

(2) 指導の計画から評価までの基本的な流れについて

- 学習評価においては、次に示す4つのことが重要である。
 - ・ 児童・生徒の実態を把握し、学習指導要領の各段階の目標・内容を確認する。
 - ・ 年間指導計画を作成し、単元を設定する。
 - ・ 指導を実施し、単元ごとに評価を行う。
 - ・ 単元ごとの評価を総括し、学期末や学年末の評価を行う。
- 指導後の児童・生徒の変容や成長について評価する。
 - ・ 児童・生徒の変容や成長などの「良い面」を重視する。
 - ・ 変容や成長について教師間で共有する。
- 学習評価を行うに当たっては、教師が児童・生徒一人一人のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすることで、児童・生徒が自分自身の目標や課題をもって学習を進めることができるようになることが大切である。（図2：学習評価の基本的な流れ）

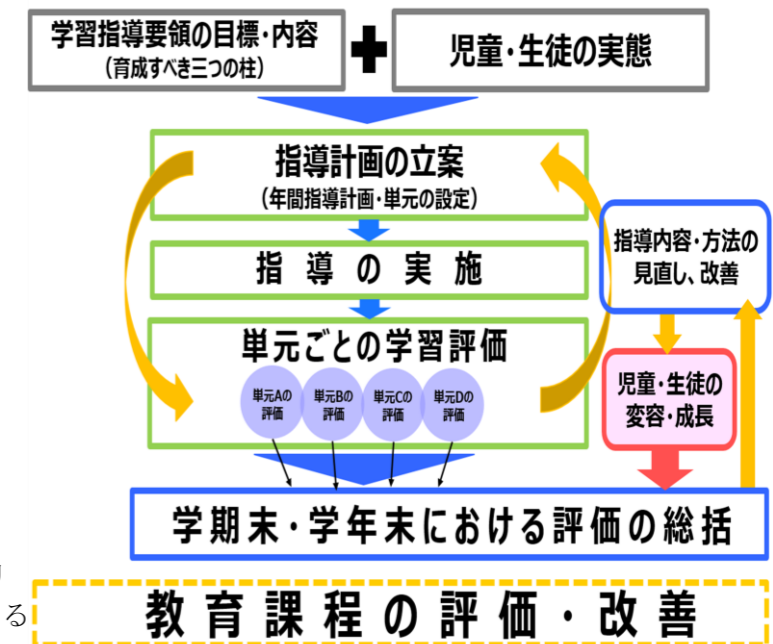


図2 学習評価の基本的な流れ

(3) 評価の実際について（実際の授業における具体的な評価場面の設定例）

知的障害特別支援学校の児童・生徒は、一人一人の実態等が異なるため、それぞれの発達段階に応じて指導を行い、進歩の状況を文章記述により評価する。

（2ページ 「2 『都立特別支援学校における学習評価の考え方や進め方に関する研究・開発』（実践編）の概要」を参照）

2 「都立特別支援学校における学習評価の考え方や進め方に関する研究・開発」(実践編)の概要

特別支援学校(知的障害)の各学部における各教科の学習の記録については、特別支援学校の学習指導要領に示される各学部の各教科の目標、内容に照らし、各教科の評価の観点及びその趣旨を踏まえ、具体的に定めた指導内容、実現状況等を箇条書き等により文章で端的に記述することとされている。

本研究では、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う場合の観点別学習状況の評価の要点を以下のように整理した。

①

【知識・技能】(思考・判断・表現)の評価の要点 それぞれの発達段階の活動に応じて、実際に知識や技能を用いる場面、思考・判断・表現する場面を設けて評価する	【主体的に学習に取り組む態度】の評価の要点 発表や発言、「つぶやき」などを観察するなど、それぞれの発達段階の活動に応じて、教科で学んだことを学習や生活に使う、活用するといった視点で評価する
--	--

【事例】 中学部第2学年 美術科 2段階

- 単元名 「水墨画」
- 内容のまとめ(2段階) 「A表現」ア(ア)「B鑑賞」ア(ア)
- 単元の目標
 - …【知識及び技能】
 - …【思考力、判断力、表現力等】
 - …【学びに向かう力、人間性等】
- 単元の評価規準 **②**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
造形的な視点について理解している。 材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けている。	造形的な特徴などからイメージを捉えながら、造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考えるとともに、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想したり、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めたりしている。	創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

- 生徒の実態等 ○○○…
- 単元の流れ(6時間扱い) ○○○…

7 評価の実際(生徒Aの場合)

(1) 「知識・技能」の評価 ③

- 参考作品を見て、「こっちの方が黒いよ。」等、濃淡の違いに気づき、自分でも墨に混ぜる水の量を変えて描いた。
- 新しい技法にも積極的に挑戦し、作品に濃淡をつけて色を塗ることに取り組んでいた。

(2) 「思考・判断・表現」の評価 ④

- 好きなモチーフを撮影するうち、物の位置や写真を撮る距離を変えて、絵に描く際のことを考えて写真を撮るようになった。
- 明るい所は薄墨で塗り、色の濃い場所は墨を薄めずに塗るなど、表現したいことに合わせて塗り方や順番を考えた。

(3) 主体的に学習に取り組む態度 ⑤

- 映像による作品紹介や、実物を使った技法の手本をよく見ていた。
- 参考作品や友達の作品を鑑賞し、色や描き方を自分の作品に取り入れていた。
- 新しい技法への意欲が高く、単元の後半は夢中になって取り組み、授業終了間際まで描き続けていた。

8 観点別学習状況の評価の総括(生徒Aの場合)

知識・技能 ③	思考・判断・表現 ④	主体的に学習に取り組む態度 ⑤
墨の濃淡を生かした表現を知り、墨に混ぜる水の量を変えてグラデーションを描いている。にじませたり、かすれさせたりする技法を取り入れ、表し方を工夫している。	校内で好きな場所を見つけ、描きたいモチーフを決めていた。写真を見て構想し、鑑賞した作品を参考に、色の薄い所は薄墨で描くなど、イメージに合わせて作品を仕上げている。	新しい技法に意欲が高く、鑑賞した作品から濃淡の違いを見つける等、気付いた表し方を自分の作品へ取り入れている。

事例を用いた解説

7 評価の実際

本研究では、①の要点を踏まえ、②に即して、実際に評価を行った場面の一例を取り上げ、児童・生徒の成長の様子や変容をまとめた

単元の評価規準【知識・技能】
「造形的な視点について理解」「材料や用具の扱い方などを身に付ける」に当たる

単元の評価規準【知識・技能】
「多様な表し方を工夫する技能を身に付けている」に当たる

単元の評価規準【思考・判断・表現】
「造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考える」に当たる

単元の評価規準【思考・判断・表現】
「発想し構想したり、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めたりしている」に当たる

単元の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】
「主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている」に当たる

単元の評価規準【主体的に学習に取り組む態度】
「創造活動の喜びを味わい、」に当たる

8 観点別学習状況の評価の総括

「7 評価の実際」で示した一例を含む単元全体の学習状況について、③、④、⑤それぞれの評価を、総括して端的に記した

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 小学校・中学校及び高等学校の各教科における学習評価の考え方を基に、特別支援学校における学習評価の具体的な考え方や手順について整理して示すことができた。
- 指導の計画から評価までの基本的な流れと学習評価のPDCAサイクルの具体的な内容を整理して示すことができた。
- 小学部及び中学部の全ての教科において、単元の構成から評価の実際までの具体例を示すことができた。
- 知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う場合の各教科の単元において、各段階の児童・生徒を例に、学習状況の評価する場面を設定して評価を行う具体や、知的障害者である児童・生徒に対する教育を行う場合の観点別学習状況の評価の要点を示すことができた。

2 課題及び今後に向けて

- 知的障害者である児童・生徒が在籍する特別支援学校に対して、本研究の成果物である「都立特別支援学校における学習評価の考え方や進め方に関する研究・開発」の普及を図り、指導の計画から学習評価の流れ等についての理解を促していく必要がある。
- 児童・生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選し、適切に評価するための「評価の計画」の考え方や作成の手順等を整理して具体的な事例等を示していく必要がある。
- 3観点の評価について、各教科において、段階ごとに評価の文案を作成して示していく必要がある。

委員名簿

東京都立八王子東特別支援学校	校長	泉 慎一
東京都立八王子西特別支援学校	主幹教諭	浅見 絵美
東京都立多摩桜の丘学園	主幹教諭	中村 理恵
東京都立七生特別支援学校	主幹教諭	船橋 学
東京都立八王子東特別支援学校	主任教諭	大元 亮子
東京都立久我山青光学園	主任教諭	香川 美沙
東京都立清瀬特別支援学校	主任教諭	武内 國頼
東京都立府中けやきの森学園	主任教諭	松島 宏樹

担当 教育庁指導部特別支援教育指導課 統括指導主事 細川 智佳子
教育庁指導部特別支援教育指導課 指導主事 宮田 愛